

つながる力 ～人生の最終段階にある人を支える仲間づくり～急性期病院での取り組み

社会医療法人財団 大和会 東大和病院 西久保 真弓

<講義概要>

『5つのみる』を用いて患者さんの辛さに寄り添うための基本の視点をご紹介します。

1. 観る： 印象 スピード タイミング 動きやすい部位 支持面との関係
2. 触れてみる： 揺らす 持ち上げる さする 当てる
3. 聞いてみる： 痛み 怖さ 変化 重さ 心の動き 心拍 力が入っている部位
4. 一緒に動いてみる： 基本動作 アクティビティ 家事動作 呼吸法
5. 変えてみる： 治療的誘導※ 重心 タイミング 動作方法 姿勢 環境

※ 治療的誘導：患者の意識的・無意識的な行為の中へセラピストが直接的に介入することは非言語的な触・運動覚を通じたコミュニケーションである。**身体間のコミュニケーション** (中略)

治療者も患者が行為を行っている環境の一部として、あくまでも患者自身が能動的に行為を遂行していく上でその知覚・行為システムの循環を促していくことを目的とした介入。

(竹中弘之：理学療法-技術と研究-29：2001)

<略歴>

1995年作業療法士免許取得。湯河原厚生年金病院、千葉県医療技術大学校、千葉県がんセンターを経て2013年から現職。主に中枢疾患、がん、整形疾患の臨床に携わり、認知症疾患医療センターの専従スタッフ。教育では運動学、治療学担当。現在、東京工科大学で非常勤講師として「ターミナルケア」の講義を担当。ケアマネージャー、認知症ケア専門士。